

NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203(サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

被災地を訪れて考えたこと

このたびの東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

コープこうべは東北の拠点生協である「みやぎ生協」に対し、事業再開のための物資提供や職員の派遣を行い、併せて車両燃料と灯油を手配して組合員への訪問や供給を可能にしました。一生協への支援にとどまらず、広く被災者につながる支援になりました。また「ハート基金(災害緊急支援基金)」1,000万円を拠出し、宮城、岩手、福島3県の災害ボランティア本部に寄贈しました。今後被災地におけるボランティア活動に活用される予定です。さらに神戸からできる支援を考えるために、神戸市社会福祉協議会、コープこうべ、神戸YMCAの三者協働による「ボランティアバス先遣隊」で宮城県の2か所の避難所を訪れ、炊き出し、ふれあい喫茶、子どもの遊びのプログラムなどを行いました。実質2日間の活動でしたが、私なりに感じたこと、考えたことを書いてみたいと思います。

被害の範囲は非常に広く、特に津波が襲った地域はがれきが一面に散らばり、車や船がどうしてこんなところにといい場所に流れ着いていました。がれきの間からは稲の切り株が規則正しく並んでいるのがわかりました。この田んぼの主は、長年おいしい米を作るためにどれほど手をかけてこられたか。その田んぼが海水に浸かり、がれきがおおってしまっている。ことばがありませんでした。

このような状況にあっても、被災地の皆さんは落ち着いておられるように見えました。私は阪神・淡路大震災の際に、生まれ育った大事な場所が破壊されたことへの怒りをぶつける対象がないことに戸惑い、困惑しました。自然災害への怒りは行き場がありません。誰かを悪者にしてしまえたらどんなにか気持ちが楽だろうと当時思いました。被災地の皆さんには、心の底にある感情をことばにする場が必要ではないでしょうか。

被災地の広大さと被害の深刻さにどこから復旧・復興の手をつけたらよいか、優先順位をつけることさえむずかしいように思えます。ボランティアのできることは、まず目の前のことからひとつずつ解決していき、震災以前の日常に戻るまで、一人ひとりに寄り添う支援をしていきたい。あるボランティアセンターでは「長く見つめて、忘れないでほしい」と言われました。現在日本中の多くの方が、被災者のために何かしたいと強く思っています。後に「ボランティア元年」といわれる阪神・淡路大震災での市民ボランティアの多彩な活動は、その後の国内外の被災地で経験を積み成長し、復興のプロセスには欠かせない存在になっています。人を救うのは人でしかないことを私たちは知りました。しみん基金・KOBÉが育ててきた市民ボランティアも、それぞれの得意分野を活かして息の長い支援に加わり、またこの大震災を機に生まれるボランティアも支援の大きな力になると信じます。

しみん基金・KOBÉ・理事 大谷 敦子 (コープこうべ理事)

主な目次

- ◆ 10周年記念・新野幸次郎氏講演会ご報告 --- 2
- ◆ NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座・ご報告 - 6
- ◆ こうべ・あいウォーク2011のご報告 -----2
- ◆ 東日本大震災被災者支援チャリティコンサート・ご案内 7
- ◆ 平成21年度助成事業成果報告会 -----3~5
- ◆ 16年目のひとり言&会員数と寄付のご報告 8



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ 設立10周年記念 新野幸次郎氏講演会のご報告



1月29日(土)14:00から、こうべ市民福祉交流センター5Fにて、しみん基金・こうべ設立10周年記念事業の一環として、(財)神戸都市問題研究所・理事長で当基金の顧問を務めて頂いている新野幸次郎先生に、「これからの市民社会に求められることは？—寄附の社会的意義について考え直す—」と題して、ご講演を頂きました。

講演に先立ち、当基金常務理事の野崎隆一より、当基金のこれまでのあゆみと、昨年10周年を記念して開催した「検証ビジョン検討委員会」で検証された成果と課題の内容、及びそれを受けて定められたこれからの方針(「絆」の大切さ、新しい世代の担い手育成)について、報告いたしました。

新野先生の講演では、まずは日米両国における個人からNPO等への寄附金額の差が20倍近い開きがあることに触れられ、その背景として、公共サービスは行政が税金で賄うべきとする日本に対して、個人がまずコミュニティに資金を寄せて身近な問題は地域の中のボランタリーな活動でその解決に取り組み、それで解決ができない規模の問題は行政が税金で解決に取り組むという、米国との考え方の違いを述べられました。

続いて、しかしながら神戸では大震災以来、NPO等の市民による「共助」の必要が認識され、実際多くのボランタリーな活動が育ってきたことに言及され、「これから日本の市民社会に求められるのは、米国のようなNPO等への寄附分を税額から控除し、公共を実現するために納税が寄附かを市民が選べる仕組みが必要である」と述べられました。



その後、休憩をはさんで会場からご質問を受け付け、新野先生と野崎との対談形式で、実際のファンドレイジング活動での苦労話などを交えながら、寄附の社会的意義についてさらにわかりやすくご解説頂きました。

当日は大勢の方々にお越し頂きました。会場でのアンケートによりますと、「税金の代わりに寄附することで、社会の仕組みそのものを変えられるという発想が非常に興味深かった。」など、好評なコメントも寄せて頂きました。

当基金としましても、多く市民による公益的なボランタリー活動が市民や企業等の自発的な寄附で支えられるような市民社会が一日も早く実現するよう、今後とも精進したいと考えています。

当日お越しいただいた皆様とご協力頂いた関係者の方々に心より感謝申し上げます。

あい こうべ ♥ ウォーク2011 ご報告

1月9日(日)に、「こうべあいウォーク2011」を開催しました。これは、阪神・淡路大震災で被災した長田地区を歩きながら、まちの復興のプロセスや現状と課題を知ることを通じて、「市民社会」のあり方を次世代に伝えていくための、ファンドレイジング・ウォークイベントです。

今年も晴天に恵まれた中、9:30ころにJR鷹取駅近くの大園公園に集合、約120人の参加者のみなさんと一緒に、ガイド役や地元の方々のお話を聴きながら4km程の道のりを歩きました。途中、「鉄人28号」モニュメントや昨秋開設された「地域人材支援センター(旧二葉小学校)」などに立ち寄りながら、お昼すぎに全員無事ゴール地点の「プラザ5」に到着して、具だくさんの豚汁と一緒に頂きました。

なお、当日スタート地点で募金(一口千円)を行ないました

が、当日経費を差し引いた約10.7万円が当基金へ寄付され、当基金助成事業に活用させていただきます。ご参加頂きました皆様とご協力頂きました方々に深く感謝申し上げます。



主催:こうべ i-ウォーク 2011 実行委員会(神戸復興塾、(特活)神戸まちづくり研究所、まち・コミュニケーション、甲南女子大学、(特活)しみん基金・K O B E) 協力:近畿労働金庫・地域共生推進室



平成 2 1 年度助成事業成果報告会のご報告



2011年3月1日(火)15:00から、平成21年度助成事業(助成対象期間:平成21年10月1日から平成22年9月30日まで)の締めくくりとして、助成先団体による成果報告会を開催しました。これは、

- (1) 各団体の事業によって得られた社会的な成果を、当基金への寄付者や審査プロセスにご協力頂いた皆様をはじめ一般市民に向けて発信する
- (2) 民間による公益的活動を市民自らの力で支えることの大切さを分かち合い、今後に向けて寄付の文化を創造するために改善すべきポイントを導き出す
- (3) 各団体報告を傾聴することで新しい気づきや学びと出会いやネットワークづくりのきっかけに活用して頂く

ということをねらいとしています。

当日は多数の方々にご参集いただき、9団体の方々によるその活動内容と社会的成果、その後の展開についてご発表頂きました。今回はいつにもまして、それぞれが向かい合う課題を発信する場面で、多くの若い人たちが参画していることが、とても頼もしく印象的な報告会でした。

当基金へご寄付を頂きました皆さまのおかげで、このような地域における暖かい活動の輪を広げることができましたことに、改めて心より感謝申し上げます。

なお、平成 21 年度に助成した「アリランはんしん」は、交付後に団体内の事情で申請事業を実施しないことになり、助成をご辞退の上、平成 22 年 5 月に助成金全額を返金頂きました。

助成先団体の事業成果(概要)とメッセージ(抜粋) ~ ご寄付はこのように活用されました。

<p style="text-align: center;">兵庫県喉摘障害者福祉協会 神鈴会 神戸市中央区</p> <p>事業名; 代用音声発声指導員スキルアップ研修会</p>  <p><事業の成果> 「音声機能障害者発声訓練指導員養成講座」では、最新の技術や知識を習得できた。また、「発声指導者新技術研修会」では、最近の下咽頭癌の手術法と代用音声の習得について講演を頂いた。指導員等へのスキルアップのための「発声指導者合同研修会」では、指導員のあるべき姿等の意見交換がなされた。</p> <p><メッセージ> 代用音声の指導に関する専門書がなく、自らが学び指導法を作らねばならず、このような研修会が貴重な機会となっています。今後も、指導力を向上させて、喉摘者の代用音声習得と社会参加促進に向けて頑張っていきます。</p>	<p style="text-align: center;">伊川を愛する会 神戸市西区</p> <p>事業名; 美しい里川「伊川」の環境を未来に伝えよう</p>  <p><事業の成果> 昆虫類・魚類等の調査は、本業の合間を縫って、精力的に行うことができた。特に、昆虫類調査では、貴重種の存在が明らかになった。また流域住民向けの調査報告会や夏休みのこどもたち向けの「水辺教室」の開催を通じて、伊川に貴重な自然が残っていることや、地域の環境への愛着と興味を持つことの大切さが共有された。</p> <p><メッセージ> 今回の助成のおかげで、レベルの高い調査活動ができました。流域住民やこどもたちの地域環境への意識付けは、さらに長い時間と根気がいると思われそうですが、今後も機会を見つけてセミナーなどを行っていきたくと考えています。</p>
<p style="text-align: center;">こころ・あんしん Light 尼崎市</p> <p>事業名; こころの病気をもつこどもの家族のサポート</p>  <p><事業の成果> 月 1 回の定例会では、会を重ねるごとに新たな参加者があり、精神疾患を持つ子どもの家族たちが集える場づくりの大切さを実感できた。2 度開催した学習会では、子どもと接する時に大切にしたいこと等のわかりやすいお話しを頂き、家族の回復が本人の回復につながることを実感することができた。</p> <p><メッセージ> 思春期はこころの不調をきたす時期であり、その家族がしんどさをオープンにできる場があること、正しい知識を得てお互いが支え合うことが、大切であることをこの取組みで実感でき感謝します。今後も活動を継続していきます。</p>	<p style="text-align: center;">傾聴ボランティアグループ よりそい 川西市</p> <p>事業名; 傾聴訪問会と勉強会</p>  <p><事業の成果> 毎週 1 回、原則 2 人一組での傾聴訪問では、人と話す機会の少ない高齢者に寄り添って、いつも笑顔でお話しをお聴きしてきました。月 1 回の勉強会では、お話しづらい方が自然にお話しできるようにするために、会員相互が気付いたことを報告しあって学び合いました。傾聴講座では、傾聴の理論と実技を学ぶことができました。</p> <p><メッセージ> 平成 22 年 10 月に「よりそい」の傾聴活動が日本経済新聞紙上で紹介されました。ひとりの高齢者が聴いてほしいと願っている限り、じっくりと聴いてあげ心の想いが現れるようにする傾聴活動を今後も継続していく所存です。</p>

神陵台 E.E.いいまちづくりの会	神戸市垂水区
事業名; 明舞団地再生・神陵台まちづくりサポ-センター-事業	
	<p><事業の成果> バザーやもちつき大会などのコミュニティのための交流の場づくり活動では、誰でも参加でき出会いを大切にできるように企画してきて、多くの方々から生活の中からの要望を聞くことができた。また、「神陵台の自然を見つけよう」等の活動を通じて、ここにある森や池について深く知り、自然を大切にすることを育てることができた。</p>
<p><メッセージ> 交流の場づくり活動では、住民自らが声をあげ実現していくプロセスを共に体験する、ということをお願いしていきたい。また、地域の財産である森や池の自然を見直す活動も続けていきたい。</p>	

ヘルマンハーブ風	西宮市
事業名; 奏でる喜びを全ての人に	
	<p><事業の成果> ヘルマンハーブは誰にでも演奏できるようにドイツで約 20 年前に開発された楽器である。そのヘルマンハーブを使って、障害者等の福祉施設での演奏会を年間 31 回実施することができた。特に、ある知的障害者の施設では、障害を持った方自らが「ふるさと」を弾き、体中から「自分が楽器を弾けた」という喜びを感じ取ることができた。</p>
<p><メッセージ> やっと進み始めたこの活動を継続させることで、ヘルマンハーブという楽器を使い、様々な人が一緒に演奏することで、その喜びを共にし、他人の立場・状態を思いやる余裕が生まれる幸せな社会の実現を目指していきたい。</p>	

被災・高齢者識字教室 ひまわりの会	神戸市兵庫区
事業名; 被災・非識字高齢者の読み書き教室	
	<p><事業の成果> 戦前強制的に来日させられ、文字を学ぶ機会のないまま高齢となった非識字者への読み書き教室で学んで作成された作文や習字作品を、文集としてまとめあげ、展示会を開催することを通じて、その辛苦の歴史を世に問い、多くの方々に識字教室の必要性を理解してもらうことができた。</p>
<p><メッセージ> 文集作成は、高齢化した少数のスタッフだけでは困難な取り組みでしたが、神戸大学学生震災救援隊「ひまわりチーム」の応援で実現することができ、とても喜んでます。将来この文集を基により総合的な冊子を作成したいと望んでいます。</p>	

神戸プラネット	神戸市長田区
事業名; 第2回神戸ドキュメンタリー映画祭	
	<p><事業の成果> 日本を代表する記録映画監督・土本典昭を回顧するのにふさわしい作品数を上映し、豪華なゲストを招き、充実したプログラム内容を実現することができた。また、ウェブサイトなどの告知により全国から関心を持った方が観に来られ、「神戸映画資料館」を知ってもらう機会となった。</p>
<p><メッセージ> 水俣病の発生から半世紀がたち、「告発」の時は過ぎ、「記憶・記録の継承」「人と土地の甦り」を考える必要のある時代に、土本典昭作品を特集した社会的意義は大きいと思う。今後も、このような映画祭の開催を模索していきたい。</p>	

OGOGOGO PROJECT 実行委員会	神戸市北区
事業名; 淡河そら祭り	
	<p><事業の成果> 茅葺きの技術を生かした舞台づくりなど、村の若者を中心に企画した、地域資源を生かしたお祭りを開催した。当日は雨天にもかかわらず、村内外から多くの人たちに参加して頂き、共に楽しむことを通じて、世代間のつながりや伝統技術の継承、都市と農村の交流を図っていくきっかけをつくることができた。</p>
<p><メッセージ> コンテンツを盛り込みすぎたため、手の回らなかったことも多く、今後の反省点としたい。今回は、淡河で生まれた若い芽をつみとって下さったことに感謝し、精進を重ねていきたいです。今後とも温かく見守って下されば幸いです。</p>	

こうべ子どもにここ会	神戸市東灘区
事業名; 深江多文化子どもまつり2010	
	<p><事業の成果> ささまざまな文化背景を持つ外国籍住民が多く定住化する地域の中で、日本人住民との相互理解を深める機会として祭りを開催した。当日は雨天であったが、テレビ番組の取材やカラー刷りのチラシ・パンフレットの配布などもあって、たくさんの方々に来場して頂け、関心度が高まっていると感じることができた。</p>
<p><メッセージ> 助成を契機として 3 年ぶりにまつりを開催することができました。これを契機に地域の方からも注目されてきたので、今後もまつりは「みんなで作ってあげていくもの」という認識を頂けるように様々な「関わり」の形を作っていきたいと思ひます。</p>	

(特活)保育ネットワーク・ミルク	三田市
事業名; 保育ボランティア・インターシップ事業	
	<p>< 事業の成果 > 保育ボランティア養成講座や預かり保育における保育補助の体験を通して、若い参加者が将来就きたい職業として、子どもが好きということだけでなく、辛いこともあるという両面を認識して、この先の展望と自信につなげることができた。また、参加者一人一人が真面目に向き合う姿が、既存スタッフの刺激にもなり共に研鑽を重ねることができた。</p> <p>< メッセージ > 今後ともこの事業を実施していくことで、ひとりでも多くの支援者を養成して、個々が連携して地域が一体となり、子育てに奮闘する親子が温かく受け入れられる社会環境をつくっていききたいと思います。</p>

W・Sひょうご	神戸市灘区
事業名; DV被害者のための相談スタッフ養成!	
	<p>< 事業の成果 > 基礎講座には予想を上回る申し込みがあり、ニーズに合った講座企画であったと実感できた。受講者の中にはすでに支援経験者も多く、講座を通じてスキルアップにつなげることができた。その後の傾聴ワークや電話相談実地研修等を通じて、団体としてもとても優秀な人材を得ることができた。</p> <p>< メッセージ > この講座には行政関係者の参加もあったので、養成講座のモデルとして今後の活用が期待されます。事業を通して、神戸市男女共同参画センターや NPO 法人フェミニストカウンセリング神戸などとの協力関係を深めることができたことに、大変感謝いたします。</p>

兵庫区地域自立支援協議会	神戸市兵庫区
事業名; 兵庫区内の福祉施設ガイドマップ冊子作成	
	<p>< 事業の成果 > 兵庫区障害者事業所ガイドマップ 2010「ひょうごころ」の製作・発行することができ、区役所、障がい者福祉センターや特別支援学校等に広く配布して、障害者等の日中活動の場の紹介や進路の相談に役立てることができた。仕上がりがよく、データの書き換えも可能な形で制作したので、将来的にも更新しやすく、利用価値が高いと評価された。</p> <p>< メッセージ > 今回のガイドマップが、さらに兵庫区内で活動している障害者福祉施設の情報を、広く一般区民の方々にも理解を深めて頂くとともに、交流・連携の一助となることを期待しています。</p>

神戸 YWCA 夜回り準備会	神戸市中央区
事業名; 野宿している人の生活の安定と社会的理解の促進を目指す	
	<p>< 事業の成果 > 野宿している人への訪問・相談活動では、福祉事務所や病院へのアクセスを仲介することができた。越年炊き出し活動では、食事だけでなく相談の場も提供した。</p> <p>パソコンの導入で報告書作成はスムーズに行えるようになり、また報告書発行で新たにこの問題に関心を持つ人も出てきた。</p> <p>< メッセージ > 若者による野宿者への襲撃事件や行政による追い立てなど、野宿者への「排除問題」は根深い。労働条件は悪化の一途をたどり、追い詰められた場面に野宿するしかない人たちの人権問題は簡単に解消されることはないだろう。報告書発行で、少しでもこの状況への理解者を増やしていきたい。</p>

(特活)こころアートコミュニケーション	西宮市
事業名; 緩和ケア病棟におけるアートセラピー	
	<p>< 事業の成果 > 日本精神衛生学会でのポスター発表で緩和ケア病棟におけるアートセラピー活動の必要性を少しでも伝えることができた。ほぼ週1回で行っているボランティア</p> <p>活動では、スタッフの人数を増やし、ロビーに出られない患者さんに、病室での対応が可能になった。また、多くの画材を揃えることができたので、患者さんの満足度が向上した。</p> <p>< メッセージ > ボランティア活動では、体力の弱い患者さんに対して、画集など見て頂くことで話が弾み、心を開かれることが多くありました。研究活動では、今後は家族へのグリーフケアや海外書籍の研究を進めていきたいと思っています。今回の助成で活動継続の意味付けが確固たるものとなり、次への活動の後押しとなりました。</p>

ゆうきっくらぶ	西宮市
事業名; 『ゆうきっくピア』特性をもつ子と親の居場所づくり	
	<p>< 事業の成果 > 地域の自治会館を居場所として利用したことで、自治会の役員の方々に見守って頂き、地域とのつながりを深めることができた。また、さくらフェスタへ参加して、他の</p> <p>地域の福祉活動ともつながりを創ることができた。学生へ様々な機会での活動への参加を呼び掛けて、多くのボランティアの機会を提供することができた。</p> <p>< メッセージ > 福祉施設での活動から踏み出し、地域の人たちに障害を持つこどもの姿をありのまま受けとめてほしい、との願いがあったが、今回の助成を契機に、このような地域の人から見える居場所での活動をスタートすることができました。ボランティアの確保や位置の問題など課題も多いが、今後も継続していきたいと思っています。</p>

NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座(西日本地区版)・ご報告

当基金では初めての講座事業として、NPO法人パブリックリソースセンターとパナソニック(株)のご協力のもと、2010年8~12月までの間、標題の講座を実施しました。

この講座は、NPOの経営を行っている理事やスタッフ、その支援を行っている中間支援NPOスタッフ、NPOの経営に関心を持っている社会人を対象に、テキストとe-ラーニングによる基礎編(通信講座)と実際のNPOを実習先として組織診断を行う実践編(実習+教室学習)という構成で、2004年からNPO法人パブリックリソースセンターが主催して東京で開催されてきました。

当基金では数年前から、助成というかたちで支援した後のフォローアップをどのような形で進めていくのが良いのかが懸案のひとつでした。その解決策のひとつとして「マネジメント支援」の在り方を検討していく中で、2008年東京でのこの講座を受講しました。

しばらくしてパブリックリソースセンターから、関西でも開催してみないかというお話があり、2009年秋からそのための検討と準備を積み重ねてきました。2010年7月に受講者募集を行い、7名の方に申込みを頂き、無事開催できることになりました。実習先もNPO法人マブイ六甲が、快く引き受けて頂きました。



8月から10月までの基礎編(通信講座)のあと、いよいよ実践編が10月30日のオリエンテーションから始まり、その後、下記スケジュールでプログラムを進めていきました。

- ・11月13日 ヒアリング項目抽出(教室学習)
- ・11月28日 ヒアリング(実習)
- ・12月4日 SWOT分析・課題の抽出(教室学習)
- ・12月18日 診断結果報告会(実習)

講座終了時のアンケートによると、受講者側も実習先団体側も概ねご満足頂けたようです。

この講座に関わって頂いたすべての皆様方に心より感謝申し上げます。

しみん基金・K O B E の活動報告(2010年12月~2011年3月)

【イベント・講演・研究会等】

- | | |
|---|---|
| 12月3日 神戸市アドバイザー派遣事業;第3回NPO運営
ステップアップ連続講座「サブちゃんサロン」 | 2月4-6日 ファンドレイジング日本2011 @東京
主催:日本ファンドレイジング協会 参加:江口、村尾 |
| 12月4日 NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座
(西日本地区版)実践編・第3回教室学習 | 2月7日 NPOと行政の協働会議@ひょうごボランティアプラザ |
| 12月9日 KEC アドバイザー派遣事業;研究会 | 2月7日 ファンドレイジングセミナーin大阪 @大阪NPOプラザ |
| 12月18日 NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座
(西日本地区版)実践編・診断結果報告会(P6掲載) | 2月11日 KEC アドバイザー派遣事業;(特活)マブイ六甲 |
| 12月24日 中間支援NPOと行政の意見交換会
@神戸市役所プラットフォーム | 2月13-14日 KEC アドバイザー派遣事業;
中間支援NPOスタッフ研修 @神戸 |
| 1月5日 KEC アドバイザー派遣事業;研究会 | 2月16日 中間支援NPOと行政の意見交換会
@神戸市役所プラットフォーム |
| 1月6日 NPOと行政の協働会議@ひょうごボランティアプラザ | 2月17日 芦屋NPOセンター助成金説明会 |
| 1月9日 こうべ・iウォーク2011 (P2掲載) | 2月21日 市民ファンド連絡会 @東京 |
| 1月11日 市民ファンド連絡会 @東京 | 2月22日 神戸新聞チャリティコンサート・事前打合せ |
| 1月13日 シンポジウム「宝塚・語りつく震災 絆から生まれたもの」
パネル出演:黒田理事長 主催:宝塚市・宝塚NPOセンター @宝塚アピアホール | 3月1日 平成21年度助成事業・成果報告会 (P3掲載) |
| 1月13日 神戸市アドバイザー派遣事業;
(特活)サポートステーション灘・つどいの家 | 3月4日 NPOと行政の協働会議@ひょうごボランティアプラザ |
| 1月17日 1・17メモリアル・コンサート竹下景子さん詩の朗読と音楽の夕べ
主催:復興支援コンサート実行委員会 @灘区民ホール | 3月5日 KEC アドバイザー派遣事業;(特活)マブイ六甲 |
| 1月17日 はぁ~とふるファンド申請受付開始 | 3月7日 中間支援NPOと行政の意見交換会
@神戸市役所プラットフォーム |
| 1月19日 神戸市アドバイザー派遣事業;
(特活)サポートステーション灘・つどいの家 | 3月10日 神戸市アドバイザー派遣事業;
(特活)サポートステーション灘・つどいの家 |
| 1月27日 中間支援NPOと行政の意見交換会
@神戸市役所プラットフォーム | 3月17日 KEC アドバイザー派遣事業;研究会 |
| 1月29日 設立10周年記念・新野幸次郎氏講演会(P2掲載) | 3月18日 はぁ~とふるファンド申請受付締切 |
| 1月30日 KEC アドバイザー派遣事業;財務診断講座 | 3月22日 神戸市アドバイザー派遣事業;報告会 |
| 2月1日 KEC アドバイザー派遣事業;(特活)マブイ六甲 | 3月25日 KEC アドバイザー派遣事業;報告会 |
| 2月3日 KEC アドバイザー派遣事業;研究会 | 3月29日 KEC アドバイザー派遣事業;(特活)マブイ六甲 |
| | 【会議】 |
| | 1月14日 四役運営会議:KEC 市民ファンド構想ヒアリング&意見交換、設立10周年記念講演会・新年度事業計画について協議 |
| | 2月16日 理事会 :新年度事業計画・今後の日程について協議 |



～ 東日本大震災被災者支援 / 日本を元気に！ チャリティコンサート ～
日本センチュリー交響楽団 & 田部京子のベートーヴェン 開催のご案内



16年前の阪神・淡路大震災で我々が学んだことは、社会的弱者を地域で支えていくコミュニティの重要性でした。そして現在「無縁社会」と呼ばれる状況が蔓延していく中、さらに3月11日に東日本太平洋岸を襲った未曾有の地震と津波、それに伴って起った原発事故で、たくさんの人々の命とくらしがいま苦境に立たされています。これからの数年間は、より一層の「絆」の再生と創造が求められることになるでしょう。

このコンサートでは、強靱な精神力で苦難を乗り越え、再び生きる意思を音楽で表現してきたベートーヴェン作品の演奏を通して、東日本大震災からの復興を共に応援することを目的に、下記の各団体との協働で開催することになりました。コンサートによる収益金は、すべて当基金に寄付されます。そして、平成23年度の当基金助成事業の中で、東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動を行うNPO・NGO / ボランティア団体への助成金として活用させて頂きます。(詳細は後日当基金HP上で公表します。)

主催：神戸を元気に！チャリティコンサート実行委員会(神戸新聞社、神戸新聞文化財団、公益財団法人日本センチュリー交響楽団、(特活)しみん基金 KOBE)

助成：日本財団

【開催概要】

日時：2011年7月16日(土)
 開場 15:30 / 開演 16:00



会場：神戸新聞松方ホール TEL:078-322-7191
 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情文ビル4階
 アクセス：JR「神戸」駅、市営地下鉄海岸線「ハーバーランド」駅より徒歩約10分

曲目：ベートーヴェン

- ・ピアノ協奏曲第4番 ト長調 作品58
- ・交響曲第7番 イ長調 作品92

演奏：指揮 / 現田茂夫 ピアノ / 田部京子、管弦楽 / 日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)

入場料：【しみん基金・K O B E 特別前売価格】 ¥4,000
 全席指定席・消費税込 (なお、通常価格は¥5,000)

チケットの予約申込みは 当基金事務局までご連絡をよろしく
 お願いします。 TEL:078-230-9774



六甲アイランド高校バレンタインキャンペーン
 「まごころチョコレート」でハイチの未来を支援したい ご報告



このキャンペーンは、神戸市東灘区の市立六甲アイランド高等学校の生徒有志によるボランティアグループ「RISOLAB.(リソラボ)」と神戸の人気洋菓子店「ボックス」のコラボレーションで、「まごころチョコレート」を限定製造・販売し、その収益の一部を昨年起こったハイチ大地震の被災地にこども病院を建設するための資金として寄付するというものでした。そもそもこの活動は、1995年の阪神淡路大震災のときには、まだ乳児だった今の高校生たちが、総合的学習の授業で震災復興について学んでいく中で、「世界中から頂いた愛を決して忘れてはいけない」という思い抱いたことから始まっています。

ご縁があってこの高校生たちの活動を知り、当基金の理事を務めている「ボックス」の福原社長に相談しましたところ、快くご協力頂けることになり、このキャンペーンが始まりました。

具体的には、「まごころチョコレート」のパッケージに高校生たちがデザインしたステッカーを自ら貼りつけ、ハイチの子どもたちのための支援を呼びかけたメッセージカードを挿入、2月から3月上旬まで「ボックス」各店舗等にて、1箱500円で販売しました。その結果1501箱が売れ、収益金の20%にあたる150,100円がハイチのこども病院建設へ寄付されました。

当基金としても「次代の担い手育成」をテーマとして掲げて

いまして、このような若い人たちの想いと企業等のリソースを結び付けることで、新しい寄付のスタイルをつくっていくことを、今後とも応援していきたいと考えています。



＜リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法＞

古着： オレンジスリフティ
 TEL 078-858-7090
 〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208
 オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付して下さい。
- ・送付の際は、メモにて「しみん基金こうべ リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担下さい。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませて頂いた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いて下さい。再販売可能なものと考えて頂ければ大丈夫です。



16年目のひとり言
～人として生きること～

3月11日午後2時46分、日本国内観測史上最大規模となるM9.0の地震が三陸沖を中心に南北500キロ、東西200キロを震源として発生、宮城県で震度7、東京で震度5強、大阪でも震度3を観測した。追い討ちを掛けるように地震により津波が発生し、岩手、宮城、福島の海岸地帯を呑み込んだ。津波はこれまでの想定を遥かに超え、三陸地方では30メートルを超える高さに及んだ。地震と津波によって犠牲になられた方は1万3千人を超え、地震から1ヶ月を経過した今も行方の分からない方が1万5千人以上、避難所生活を余儀なくされておられる方は14万人に上ると聞いている。更に事態を重くさせたのは原発問題だった。地震によって停止した福島原子力発電所を大津波が襲い、全ての電源を失った原子炉は危機的状況に陥り、今もって解決の糸口は掴めておらず、被災地復旧の障害となっている。そんな中でも被災者の皆さんが力強く立ち上がろうとする姿や、全国民が心を一に被災地支援に立ち上がる姿には心を打たれる。被災地支援のボランティア活動はじめ様々なチャリティ活動に16年前の阪神・淡路大震災の教訓が十分に活かされていると感じることが多々ある。被災地への支援が一過性に終わることなく、継続的に続いていくことを16年前の被災者の一人として切望したい。震災後、公共広告機構のCMで広く知られるようになった宮澤章二さんの詩「行為の意味」を紹介し、ペンを置く。

あなたの ころ はどんな形ですかと、ひとに聞かれても答えようがない。自分にも他人にも ころ は見えない。けれど ほんとうに見えないのであろうか。確かに ころ はだれにも見えない。けれど ころづかい は見えるのだ。それは 人に対する積極的な行為だから。同じように胸の中の 思い は見えない。けれど 思いやり はだれにも見える。それも人に対する積極的な行為なのだから。あたたかい心があたたかい行為になり、やさしい思いが やさしい行為になるとき 心 も 思い も初めて美しく生きる。それは、人が人として生きることだ。

しみん基金・KOBÉ 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 38名 団体 4名
賛助会員 個人 66名 団体 15名

(2011年3月末現在)

寄付・募金合計金額 534,877円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

中島 秀男、(社福)兵遊協社会福祉事業協力会、
太田 達男、中谷 豊、島田 誠、山木 康夫、
復興支援コンサート実行委員会、こうべあいウォーク
2011実行委員会、尾西 秀敏、オレンジスリフティ

(2010年12月～2011年3月)

皆様のご厚志に、心より御礼申し上げます。

「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」

しみん基金・KOBÉ の最新情報は「事務局ブログ」で随時更新!

このニュースレターは、約3～4か月に1回のペースで発行していますので、少し情報が古くなってしまいます。そこで、昨年2月より当基金の最新情報は、随時「事務局ブログ」で更新するようにしています。当基金ホームページのトップ画面にある事務局ブログ[一覧]をクリックすると全記事がご覧頂けます。時々覗いて頂ければ幸いです。よろしく申し上げます。

<http://www.stvlebuilt.co.jp/kikin/blog/>